

第 211 回 MINERVA ビジネスプラン発表会

【令和元年 10 月 8 日(火) 開催 会場: 岩崎学園 (新横浜 1 号館 8 階)】

1. 株式会社レゾンテック 代表者 関沢 康史 氏 (<http://raisontech.jp/>)

【住所】 埼玉県久喜市桜田 5 丁目 23-4 【設立】 2017 年 7 月 【資本金】 7,630 千円

【事業概要】 共振・共鳴を使った電磁誘導の技術を中心に、メーカーへのモジュール提供、先進技術に対する研究開発、オリジナル商品のモノづくりにこだわった、技術ベンチャーです。特に電磁誘導方式のスタイラスペンとワイヤレス給電は、一部 IC 化にチャレンジし使い易さも工夫しながら、今後の主軸に展開していきます。またこれらを活かせるビジネス展開、システムサービスの立ち上げも目論みます。

【コメント】 同社が目指すワイヤレス給電のターゲットとしては、①家電ロボット、②ドローンや産業ロボットの充電、③無制限稼働、無限回転が可能に、④会議室、喫茶店のワイヤレス化、⑤スマートな無線の高級家電、⑥過酷な環境での通電に最適、⑦EV 向けのワイヤレス給電の挑戦を考えており、その他にもアクティブペンの電池レス化、カプセル内視鏡分野への参入も検討されているそうです。市場規模としては、まだまだ開拓の余地がたくさんあります。



2. 有限会社システムクリエイト 代表者 渡辺 文生 氏 (<https://lestyle.co.jp/>)

【住所】 東京都三鷹市牟礼 5-13-41 【設立】 1996 年 12 月 【資本金】 3,000 千円

【事業概要】 企業からの各種相談の解決策を提案する中、昨今課題の健康経営や人口減少、働き方改革による働き手の不足の解決策として、株式会社 WFN が開発した SEV(特許技術)を活用する、「健康ソリューション経営」を提案しています。企業が抱える“プレゼンティーイズム”を解決することで、企業価値を高め「健康は企業投資」という考え方を実現します。

健康ソリューション経営の提案は 1.社員に対する「健康的満足感の提供」、2.「快適な職場環境の実現」、3.「元気なコミュニティ活動」、4.「付加価値事業の創造」

上記のプラットフォームから、人と企業が元気になる為の具体的解決策を提供します。

健康経営のソリューション提案のみならず、SEV 技術は製造装置等に効果を与え、製品に対する SEV 効果を付加価値として新商品開発、コストの軽減を実現しています。対象企業は自動車整備工場、製造業、農業、介護施設、医療施設、教員機関等で、現在検証や研修を継続しています。導入企業も既にあり、人的効果や新商品開発に貢献しています。SEV はその場で体験、体感でき、製造業や農業には新たな可能性を感じて頂けると確信しております。SEV 技術の紹介で提案企業を元気にし、収益アップの仕組みを提供します。

【コメント】 この SEV とは、微弱なエネルギーを発する「天然鉱石」と「数十種類の金属」を組み合わせ、電子を発生させます。この電子を対象物に与えることにより、SEV 特有の電子的作用を発生させ、対象物を活性化することが出来ます。SEV の物質活性化テクノロジーが、物質そのものに働き掛け、エネルギーのロスを軽減することにより、本来持っている性能・性質を引き出します。健康、自動車、スポーツギア、住宅環境、工場設備への技術として実績のある信頼性の高い技術になります。



3. 金太郎ファーマ株式会社 代表者 岸 洋路 氏 (<https://kintaropharma.com/>)

【住所】 東京都品川区東五反田 5-22-37 オフィスサークル N 【設立】 2019 年 2 月

【資本金】 2,000 千円

【事業概要】 将来的には、再生医療分野での細胞医薬品製造業となります。骨髄由来間葉系幹細胞の培養技術があるため、その技術を生かし複数の難治性疾患に対する細胞治療薬を開発していきます。初めのターゲット疾患は、クローン病となります。これにより原因不明の難病であるクローン病を根源治療できる医薬品が提供できるようになります。現在は、抗体薬などクローン病に対しての医薬品がありますが、根治治療できる可能性はありません。弊社のグループ会社は、海外ですでに豊富なさまざまな疾患の臨床経験があり、治験が途中で頓挫するリスクが極めて低い創薬プロジェクトとなります。再生医療等製品は、PMDA の理解も進み早期承認する先駆制度ができましたので、5 年ではじめの認可に持ち込めます。再生医療とは、事故などによるケガや病気によって失ってしまった身体の一部の再生や機能の回復を目指す医療のことです。つまり、体内にある臓器や組織を再生し、その機能を元のように回復させていくことが目的となります。少し前までは、そんなことは夢の中の話といわれていましたが、現在では皮膚の移植治療のように、すでに治療が一般化しているものもあります。その中でも注目されているのが幹細胞治療薬になります。骨髄由来間葉系幹細胞「KINTARO 細胞」については、東京医科大学との共同研究が進められ、若いドナーの細胞と高齢者ドナーの細胞の違いを分析し、その研究データが医学誌で発表される予定です。今後、様々な間葉系幹細胞は、より多くの人たちの健康寿命を延ばす役割はもちろん、これからの再生医療の発展や創薬の発展も含めて社会に大きく貢献するでしょう。

【コメント】 同社の幹細胞はソビエト時代から 50 年の研究を基礎に日本の培養技術を加え、より自然に近い細胞を開発されました。グループとしては 8 年の海外臨床経験があるそうです。岸社長は「『KINTARO 細胞』の特長は治験リスクが低く、リターンが大きいことです」とおっしゃっていらっしゃいました。今後、再生医薬品マーケットは大きく広がっていく可能性があり、同社では 2 年ごとにパイプラインを増やし、市場をリードしていくそうです。



【感想】 今回も様々な分野の企業に御発表頂きました。いずれの企業も新しい市場を開拓していこうとされており、今後の展開が楽しみです。もし今後、発表会での発表をご希望される企業がいらっしゃいましたら、お早目にご連絡をお願い申し上げます。

NPO 法人ベンチャー支援機構 MINERVA
(株) TNP パートナース、(株) TNP オンザロード
(株) TNP スレズオブライト
井汲 美樹